西印度商船とセビリヤ貴族

木田和雄

スペインと新大陸との貿易は，1503年，王室がセビリャに「通商院」Casa de Contratacion を創設していらい，その重金主義的な厳しい統制のもとに，事実上セビリャを独占港として展開されるようになった結果，新大陸貿易の飛躍的発展にともなって，そこから得られる「信じられないような」高利潤は，主としてセビリャの投資家の占めるところとなった。このため，16世紀のセビリャでは，市の旧貴族が高率の利潤を求めて海運・貿易に投資を行ない，積極的に商業活動に従事する，貴族の商人化とともに，貿易によって産をなした市民が売官制度や婚姻を通じて新しく貴族に成り上がる，商人の「貴族」化とがとくにいちじるしく進んだ。

この「貴族」化した商人と，商人化した旧貴族とは，新大陸との遠隔地間商業から引き出される利潤をできるだけ大きくするために，セビリャの貿易独占力を強化しようとする共通の利害関係によってしだいに緊密に結ばれるようになり，16世紀の終り頃までに，セビリャに商業「貴族」階層が形成されるにいたるが，本報告では，それまでの過程におけるセビリャ貴族の海洋貿易にたいする投資活動を，つぎの3項に分って考察する。

(1) 船主と大貴族＝スペイン王室は，いわゆる「西印度航路」Carrera de Indias に就航する船舶に対して種々様々な規制を設けたが，新大陸との海上輸送を確保する必要上，運賃契約については，全くといってよいくらい干渉を加えなかった。したがって，遠隔地間の海運業は，ともなう危険が大きいだけに得られる運賃収入も高く，極めて有利な事業であった。しかしながら，西印度航路に用いる大型船を所有し，維持するには多額の投資を必要としたゆえ，よほど財力に富むものでないかぎり，独力で船主になることは困難であった。ここに，16世紀のセビリャの大貴族たちが，新大陸向けの船舶に対してさかんに投資を行なった最大の理由がある。

(2) 西印度商船と小貴族＝セビリャ大貴族の投資が主として船舶の所有に向けられたのに対して，小貴族たちが新大陸貿易のなかで演じた役割は，一般の商人となんら異なるところがな

かった。かれらは，商人と全く同様に，海事金融，信用販売のような高利貸的業務をいとなみ，船舶持分所有者として奴隷・商品貿易を行ない，さらにまた西印度において牧畜，真珠採取などの新事業にも参加した。このように，小貴族層の営利活動は実に多方面にわたっており，その点では，全体的に大貴族にくらべて封建的土地基盤がはるかに脆弱な小貴族の方が，商人化がいっそう徹底していた。ここでは，その典型的な事例として，セビリャの古い小貴族中，プラド家 Prados とバレラ家 Barreras とを中心にのべる。

(3) 貿易商人の「貴族」化＝16世紀のセビリャにおいては，市の伝統的な貴族の商人化が一般的に促されたが，これと平行して，商人階級のなかから貴族に上昇するものが相次いで現われ，新貴族層が形成されるに至った。商人の「貴族」化自体は，もちろん，スペインのセビリャにのみ特有な現象ではなく，王権と商人の結合が進んだ16世紀の絶対主義国家のもとでは いたるところでみられる現象である。しかしながら，本源的蓄積の諸契機がまっさきに配分されたセビリャでは，大財産が短時日のうちにできあがり，貨幣の力による商人「貴族」の出現がとくに顕著であった。かれらもまた，法外な「譲渡利潤」確保のために，セビリャの独占の維持・強化に執心し，しだいに商人化した旧貴族と一体となって特権的な商業「貴族」層を形づくる方向に進むに至る。